



## いじめについて考える日

大阪市立の小中学校では、毎年大型連休明けの月曜日を「いじめについて考える日」にしています。今年のその日にあたる5月10日は、緊急事態宣言下での短時間登校日ですが、子どもたちがほとんど出席している状況から、予定どおりに実施する事にしました。

今年も児童朝会でお話を聞くだけでなく、それぞれの学年でいじめや仲間作りについて考えたり話し合ったりします。誰もが楽しく学校生活を送るという当たり前のことができるようにするにはどうしたらよいのかをみんなで考えることが、いじめについて考える日の目的なのです。

堀江小学校では、いじめの早期発見のために、学期ごとに「いじめアンケート」をしています。ここで言う「いじめ」とは、自分が嫌なことをされたり言われたりすることを指しますので、そのどちら方は人によって違いますが、昨年度は本校の約5%の児童が、自分がいじめた・いじめられたと答えています。また、そのすべてにおいて解決に向けた指導や取り組みを行っています。

人と人が毎日同じ場所で過ごしていれば、児童間のトラブルは必ず起こります。まして、大人社会でもいじめが起こる世の中ですから、発達途中の児童の間で嫌なことをしたり言ったりすることがあっても不思議ではありません。

だからと言っていじめが許されるわけではありません。中にはいじめられる方にも原因があると言う人もいますが、それは間違います。どんな理由があってもいじめは絶対にしてはいけません。しかし、いじめをしてはいけないと思っている子がほとんどの堀江小学校でも、いじめは起こってしまいます。

では、どうすればいじめは起こらないのでしょうか。私は、いじめを起こさないために必要なのは、想像力を持つことではないかと思っています。この言葉を言うと相手がどう思うか、これをすると相手がどうとらえるだろうか、そして、何よりも自分が相手の立場だったらどうだろうかと、人と関わる時に、こうした想像力を少し働かせるだけでいいのです。しかし、実際は、怒りやちょっとした自分本位なもの考え方で想像する力を失ってしまう場合が多いのではないかでしょうか。

みんなが安心して楽しく学校生活を送るためにには、みんなが少しずつ気づかいする必要があります。そんな当たり前の事でも、学校ではしっかり学ばせたいと考えています。いじめに限らず、毎日が楽しい学校生活であることは何よりも重要です。子どものしんどいサインを大人がしっかりとキャッチして、より良い方向へ導いていけるようにしていきたいと思っています。

【裏面もどうぞ】

# 堀江小学校の教職員 全員集合！

集会のクイズで、「学校の先生は何人いるでしょうか?」という問題がよくありますが、学校にいるのは先生だけではありません。堀江小学校では、いろんな職種の人が子どもたちの教育に関わっています。さて、どんな人たちがいるのでしょうか。



【学校長】本校教育の全てを管理する、学校運営の責任者です。

【副校長】本校のような大規模校や小中一貫校などで、校長を補佐しつつ職務代理もします。

【教頭】校務全般を監督し処理します。学校長の代理もします。

【首席】校務運営の中核を担い、管理職を補佐します。本校では、教務主任や特別支援教育コーディネーターを担当しています。

【教諭・講師】学級担任や教科担当、特別支援教育担当として、直接児童の指導にたずさわります。学校で子どもたちに最も近い所にいる職員です。非常勤の先生もいます。

【養護教諭】児童の健康管理や保健指導、学校医との連携などを担います。

【栄養教諭】栄養指導などの食育や学校給食の管理などを行います。

【事務職員】物品購入や施設設備の維持管理、徴収金など学校事務全般が仕事です。

【管理作業員】清掃や修繕などの環境整備や、登下校時の児童看護もしています。

【学びサポーター・特別支援教育サポーター】児童への個別支援を中心に、様々な児童への支援や補助を行います。

【学校図書館補助員】毎週火曜日、図書室に在室して休憩時の開館や、蔵書の整理などを担当しています。

【C-NET指導員】ネイティブスピーカーとして外国語活動の指導にたずさわります。

【生活指導支援員】児童が、安全に落ち着いて学校生活を送れるように見守り、支援します。

【スクール・サポート・スタッフ】お手紙の印刷や配付物の仕分けなど、学校全般にわたって様々な先生の仕事を手伝います。

【スクールカウンセラー】児童や保護者の悩みを聞いてくれます。※予約が必要です。



この他にも、給食調理員（調理委託会社の職員）を合わせて、毎日80人以上の教職員が、力を合わせて堀江小学校の教育活動をすすめています。

もちろん、その主役が子どもたちであることは、言うまでもありません。